



青森市の子育てを応援してます

Vol. 32
2023.12.4 発行

サポセン通信



青森市子育てサポートセンターでは、家庭教育に関する学習機会の提供、青森市内の小中学校で行われている家庭教育学級の運営サポート、子育て講座《きらきら塾》や発達に心配のあるお子さんに関する講座《うとう塾》の企画運営、情報収集、発信、また子育ての相談の対応等を行っています。



《第3回》 きらきら塾 7/6 開催

思春期の子どものごころとからだの変化

～親の関わり方を考えよう～



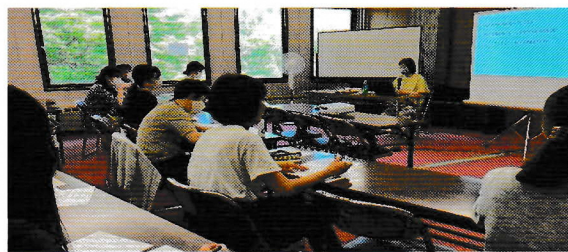
講師：福井りみ子さん

誰もが通る思春期。訳もなくイライラし、周囲の大人に反抗することがあります。そこで、思春期の特性やココロとカラダについて知り、生と性「自分を大切にする」自己肯定感を高められる関わり方について、助産師の福井りみ子さんにお話をいただきました。

また、現在の「性教育」はジェンダー平等や、性の多様性を含む人権尊重を基盤とした「包括的性教育」であり、この教育は、家族・からだ・発達・価値観・行動選択などあらゆる面における多様性を尊重し、個人の健康・安全・幸福を実現するもので、「性教育」=「タブーな話」という過去のものと全く異なる「人権教育」であり、このような「包括的な性教育」や「生と性」の学びは0歳児から行うということ！そして「大切なのは子どもが主体であること。親は温かいまなざしで待って見守ることが大事である」と話されました。

小学校高学年あたりから始まる第二次性徴に伴い、大きな身体的変化が生じ、心身ともに変化がおきる「思春期」は、大きなステージへのワクワク感と不安を感じる時期です。それは、子どもであることを卒業し、大人としての自分を確立する時期でもあり、親からの自立と親への依存の間で揺れる時期ということです。人の脳は胎児期、乳幼児期、思春期に爆発的に成長するが、その時期は脆弱(ゼイジャク=もろくて弱い)であり、前頭前野が(働き:「考える」「行動、感情をコントロールする」「コミュニケーションをする」「記憶する」「応用する」「集中する」「やる気をだす」)が鍵になることや、思春期の子どもは反抗的な態度には、反抗的な言葉で返さず落ち着いた時に話し「あなたが大事」と伝えることや日常の対話が大切です。

終了後のアンケートには「現在の子供達が進んでいる「性教育」の内容が人権教育という0歳から学ぶような素晴らしい学びだということを知り、子供達と共にもっと学びたいと感じました」「反抗期は親の愛の確認作業というお話が聞いて良かったです」「性教育は人権教育ということ、関わり続けること、子どもに大切だと伝え続けること」などの感想が寄せられました。



青森市子育てサポートセンター

【TEL・FAX】017-774-6537 (開設時以外は、留守番電話をお願いします。)
【E-mail】aomorishi-saposen@arion.ocn.ne.jp
【住所】〒038-0813 青森市松原1丁目6-3 サンピア(勤労青少年ホーム)2F
【開設日時】毎週火曜日 10:00~13:00
【ブログ】<http://blog.goo.ne.jp/saposenrarara>



ブログQRコード

おしえて！
岩田先生！！



〈岩田先生プロフィール〉
臨床心理士、公認心理師、スクールカウンセラー歴19年。
小・中・高に出向しています。ただ今子育て真っ最中。

今回から、3回シリーズで【子どもの発達と親の関わりを考える】と題して、岩田さんにお聞きしました。第1回目は

【小学校・低学年の子どもの発達の特徴と親の関わり方を考える】がテーマです。

1年生になったら〜♪と、小学校生活を楽しみにしている園児たちの様子は微笑ましいものです。小学生になると、親と一緒に登園からひとりでの登校に変わります。徒歩通学になるでしょうから体力が必要です。学校につくと時間割にそって勉強をします。切り替えと集中力が必要になります。家に帰ると宿題もします。そして毎日、必要な物を連絡帳に自分で記入して道具をそろえます。自分のことを自分でする割合がグッと増えます。こどもにとってそれはうれしく誇らしいことである一方、不安も感じるでしょう。

持ち物が他の人と違ったらどうしよう、忘れ物をしてしまったけどどうしよう、給食を残すと注意されないだろうかと親にすれば小さなことですが、こどもにとってはとても大きな不安です。そういった不安が続いたり強くなったりすると登校をしづんだり、イライラしたりすることもあります。

発達心理学的7~8歳は「幼児期」と「学童期」の境目です。そう考えると親に「もう小学生だから、このくらいできるでしょ」とみられると、こどもはちょっと苦しいと思います。環境の大きな変化もある時期ですから、なおさらです。幼児期は、自分中心でモノをみるという特徴があります。そのため、他の人からの見え方に考えが及ばず、みんなも自分と同じように思っていると考えの傾向があります。そして、発達のスピードには個人差があることも考慮すると、幼児期と学童期の境目の低学年のこどもの中には、不安を親に説明するだけの情報をもっていないこともあります。それを念頭において、こどもが不安がっているときは彼らの言い分をしっかりと聞いてみましょう。話を重ねる中で他の人の見え方に気づけたり、言葉にならない不安の正体ははっきりしたりするでしょう。そして次にどうしたらいいか、何ができるかを一緒に考えることができます。



《第5回》 うとう塾 9/9 開催

悩んでいるのは一人じゃないよ！

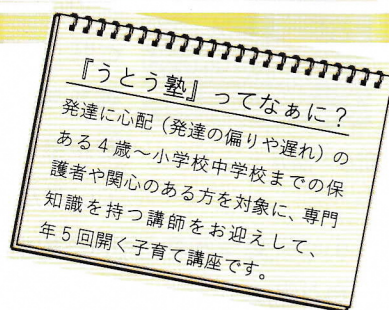
～我が家の子育て体験談～

9月9日(土)中央市民センターを会場に、先輩ファミリーの野村ご夫妻を囲んでお話をお聞きしました。野村さんのお子さんは現在支援学級(中学生)です。お二人の体験談をお聞き、子育てのヒントになるように、そして参加者同士が情報交換をする中で、繋がりを持てる機会になるように開催しました。

お二人からは、お子さんの誕生から成長の節目・節目で体験されたこと、将来に向けての思い等をお聞きしました。

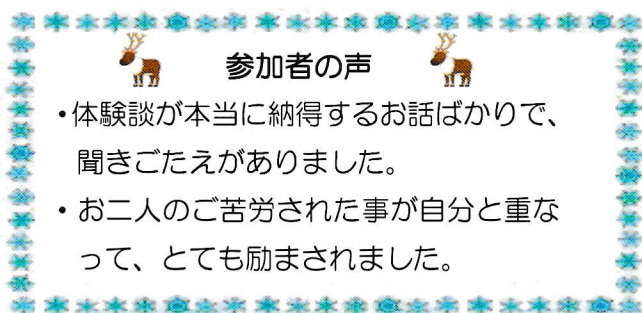
最初に、子育てをされていて違和感を覚えたお母さんは、夫さんに相談したそうですが父親としては認めたくなかったが、こども教室に父が子どもと一緒に参加し、子どもの現状を目のあたりにして障害を認めざる得なかったことを話してくださいました。

その後、医師から療育を勧められ、デイサービスを利用すると、劇的に変化がみられたそうです。両親が、長男さんの接し方を勉強することで徐々に生活にも余裕が出てきたこと。お子さんは目からの情報が入りやすいことを知り、家庭でも絵カードを用意し行ったところ、パニックが減り、次男さんにもかかわる時間が増えたそうです。



しかし、小学校に入学してからは、1週間で登校拒否、そこから怒涛の日々。何か問題が発生するたびに、学校と話し合いをするというのを繰り返した6年間とのことでした。

現在も「学校に行きたくない」という日はあるが、無理に行かせようと思わなくなったとのこと、また障害を告知し、家族みんなで障害のことを勉強し、将来は障害者枠で就労できるように、親が元気なうちにグループホーム等に入所させたいと考えているそうです。【長男が「楽しい人生だった」と思えるような道筋をつけてあげたい。そして私たちが「大変だったけど、楽しかったね」という老後を迎えたい。】と、お話してくださいました。



参加者の声

- ・体験談が本当に納得するお話ばかりで、聞きごたえがありました。
- ・お二人のご苦労された事が自分と重なって、とても励まされました。